

2月の園だより

令和5年1月30日
杉並区立西荻北子供園
園長 石床 美穂子

子どもの育ちに応じた環境

副園長 小森 三奈子

節分、立春が間近になり、暦の上では春が近づいてきていますが、厳しい寒さが続いているこの頃です。インフルエンザや新型コロナウイルス等、子供園では引き続き、手洗いや換気等に気を付けながら、感染症の予防を徹底してまいります。

西荻北子供園では令和4・5年度 杉並区教育課題研究指定園として、『幼児の“やりたい”を支える環境の工夫』について運動遊びに視点を置き、研究を進めています。

1月には、お正月遊びの1つとして、羽根つき遊びを用意しました。保育者は、各学年の幼児の実態に合わせて、どうしたら幼児の“やりたい”を支えることができるかを考えて環境を用意しました。

<3歳児> ねらい：「打つ楽しさを感じる」「自分なりのやり方で繰り返し楽しむ」

年長・年中児が羽子板で遊んでいる姿を見て、憧れの気持ちをもっていたため、羽根の代わりに、大きめの風船に糸を付けて、園庭にぶら下げました。糸が付いている風船が遠くに行かないことで、初めて経験する幼児も安心して取り組むことができ、自分なりのやり方で、繰り返し風船をつくことを楽しんでいました。また、3、4歳児は保育者が羽子板を手作りしました。羽子板の幅が広いことで、当たりやすくなり、3歳児なりにできた嬉しさや、やってみたら楽しかったという思いをもつことができ、自分から進んで楽しむ姿につながっていました。

<4歳児> ねらい：「羽をよく見て打つ」「めあてに向けて繰り返し取り組み」

風船を直径12cm程度の大きさに膨らませて、そこに3枚の羽根を付けた羽根を用意しました。本物の羽根よりも落下速度がゆっくりになっていることで、4歳児でも、羽根の動きに合わせてつくことを楽しめました。羽根つきの雰囲気を楽しみながら、繰り返し取り組みました。また、つきながら数を数えて「次はた〜さんつけるように頑張ろう」と、めあてをもつて取り組みました。

<5歳児> ねらい：「友達と一緒にすることを楽しむ」「めあてに向けて諦めないで挑戦し、達成感を感じる」

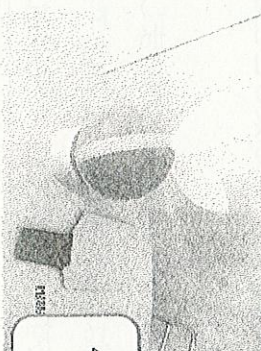
初めてのことに挑戦し、達成感を感じられるよう、本物の羽子板と羽根を用意しました。羽根が板に当たった時の音の響きの良さや当たった時の手応えを感じ、一人で続けてついたり、友達と一緒についたりすることを楽しみました。羽根が小さいため、動きをよく見てタイミンズを合わせて打つことや、相手のところまで届くような力加減が必要です。始めはうまくいかなくても、「できるようになりたい」という諦めない心が育ってきていることで、繰り返し挑戦し、成功すると笑顔が見られました。

このように、同じ羽根つき遊びでも、子どもの育ちをふまえてどのような経験ができたらいいか考えて環境を工夫することで、どの幼児も「やってみたい」「楽しかった」「もっとやりたい」という主体的に遊びに取り組む姿につながりました。この主体的に遊びに取り組む姿は、小学校以降の学びにつながるものであり、とても大切であると言われています。

今後も子供園では、研究を通して豊かな教育環境の創造や、幼児の遊びの充実を図っていきます。



3歳の羽根つきは、ぶら下がっている風船を羽子板でついで遊びます。



4歳の羽根と羽子板

子どもたちの様子と今月のねらい

3歳児 うさぎ組

ビニールの風あげや風船の羽根つき、おっくりくまさん等、寒さに負けずに保育者や周りの幼児と一緒に園庭で元気に遊ぶ姿が見られました。おっくりくまさん(鬼ごっこ)では、子どもたちがウラになりきり逃げる子を追いかけたり、捕まらないように早く逃げたりする姿も見られ、周りの幼児の存在を感じながら遊ぶようになってきました。

周りの子と同じイメージをもって遊ぶことも楽しくなってきました。周りの子と楽しむ姿を見守りながら、保育者が幼児同士の相手に入り、一人ひとりの思いを認め代弁し、やり取りを支えています。

<今月のねらい>

○周りの幼児と一緒に動いたり、簡単なやりとりをしたりしながら遊ぶことを楽しむ。

○学級の友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。

○氷や霜柱等の冬の自然に興味をもち、見たり触れたりする。

<家庭との連携>

身の回りのことが分かり、自分でできることが自信となってきています。一人でできることはそつと見守り、嬉しさに共感したり認めたりして関わっていきましょう。特に上着のチャックやボタンは、難しさから保育者に頼ってくる姿もあります。お家でも、やり方を知らせたり、手を添えたりして少しずつ自分でできるようにし、できた嬉しさを感じられるようにしていきましょう。

4歳児 くま組

寒さに負けず、よく体を動かして遊んでいます。1月の体づくり運動でボール遊びを経験したことをきっかけに、ボールで遊ぶことが楽しくなりました。繰り返しボールに触れ「バスケットボールにたくさん入れたい!」「遠くから入れてみよう。」等、自分のめあてに向かって遊ぶ姿も見られました。また、うさぎ組がしている「おっくりくまさん」を一緒にしたり、そう組と忍者の引越しや転がしドッチボールをしたりして、異年齢の友達と関わって遊ぶことも楽しんでいきます。

<今月のねらい>

○自分なりのめあてをもって、興味をもった遊びに繰り返し取り組む楽しさを味わう。

○一緒に遊びたい友達と遊ぶ中で、自分の思いや考えを動きや言葉で表しながら遊ぶことを楽しむ。

○異年齢の友達と関わって遊ぶ楽しさを感じる。

<家庭との連携>

自分たちで食事テーブルを拭き始めました。同じテーブルの友達と拭く人を決めて、丁寧に拭いています。今は、保育者が絞った布巾で拭いています。徐々に自分たちで布巾を絞って行うと考えています。ご家庭でも、ぜひ布巾を絞ってテーブルを拭く経験をしてください。

5歳児 そろ組

3学期になり、さらに友達とのつながりが深まっています。ホールでは、運動遊具を使った遊びを楽しんでいます。3～4人のグループでアスレチックや、ボールの当てゲームをつくり、体を動かしています。「こんなことをしてみたい」という気持ちを友達と伝え合い、自分たちで遊具や用具を組み合わせて遊びの場を作り、遊びを進めています。今月は、友達同士で対話をしたり刺激を受け合ったりして遊べるように、互いの思いをつなげていきます。

<今月のねらい>

○自分の力を十分に発揮したり、友達と協力したりしながら、遊びや活動を進めることを楽しむ。

○修了に向けた活動に取り組み中で、自分の成長を感じたり友達のよさに気付いたりする。

<家庭との連携>

寒い日が続いています。特に登園時は寒さが厳しく、防寒具をつけて登園されるお子さんも多くいます。一方、園では体を動かすと体が温まり「服脱ぐ！」と話す様子もあります。日頃よりご協力いただいておりますが、衣服は重ね着（子どもが自分で脱ぎ着をしやすいもの）をし、園で自分で衣類の調節ができるようにご配慮ください。

ほしグループ 長時間保育

寒さに負けず、友達や保育者と関わりながら園庭でたくさん遊びました。うさぎ組は、砂場で山づくりを楽しんでいます。フルドージャー係・白砂係・砂を固めるとんとん係等になって、友達や保育者と一緒に大きな山をつくりました。くま組は、全員保育でも楽しんでいる忍者の引っこ越しをしています。鬼の動きを見ながら逃げることや、友達を助けることが楽しくて繰り返し笑顔で走っています。他学年の幼児も忍者の引っこ越しに加わり一緒に遊ぶこともあります。そろ組は、ボールで遊ぶことが多く、ドッジボールをしたりボールを転がすトンネルづくりをしたりしました。トンネルづくりでは、タイヤやコンテナ、フープなどの用具を使いながら友達とどうやってボールが通るか試したり工夫したりしながら遊びました。

室内では、正月遊びのカルタやすごろくを友達と一緒にしたり、干支のうさぎの折り紙や製作をしたりしました。水が冷たくて、手を洗うことに抵抗のある幼児が増えました。手洗いの大切さを改めて伝えていきます。